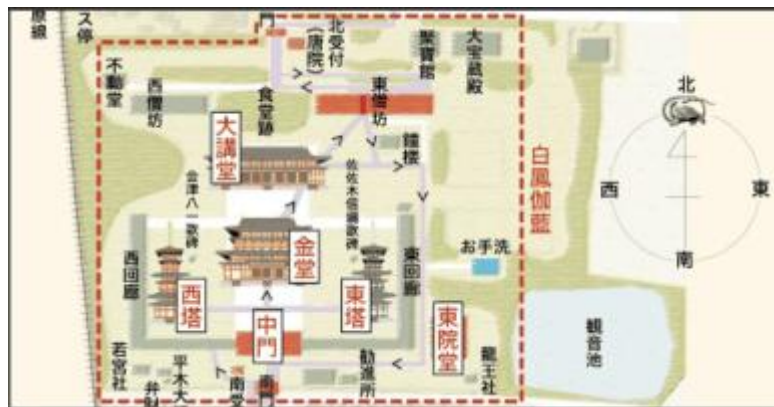


薬師寺の金堂・TVで視聴

プロジェクトX 幻の金堂 ゼロからの挑戦～薬師寺・鬼の名工と若武者たち～

TVで放送していた上記タイトルのドキュメントを録画し、先日視聴した。薬師寺に在る東塔は2009年に全面解体が始まり、昨年2020年12月に約12年間にわたる修理を終え1300年前の姿を取り戻した。屋根が六枚あり、六重塔のように見えるが、三重塔に部類する。大きく張出している三枚の屋根に対しその屋根の下にある屋根は裳階（もこし）と呼ばれている。そのリズムカルな建築美からブルーノ・タウトが「凍れる音楽」との発言したと言われているが不明だそうだ。この東塔に対して西塔が過去にはあったが、享禄の兵火（1528）により焼失してしまった。西塔は宮大工である西岡棟梁が手がけ昭和56年（1981）に再建された。両三重塔の奥に金堂がありその又奥に大講堂が配置されていた。その大講堂は享禄の兵火（1528）によって焼失し、この阿弥陀三尊繡仏も失われてしまった。焼失した大講堂は、嘉永5年（1852）に復興しましたが、もとの大講堂に比べると小さなお堂だったという。そして平成15年（2003）に創建当初の規模で大講堂は再建された。現在は、弥勒三尊像をお祀りし、法相唯識の道場として使用されている。続いて天禄4年（973）に焼失した食堂（じきどう）が寛弘2年（1005）に再建されたのだが、またもや失われてしまった。再度平成29年（2017）に三度目の建設がなされた。これにより薬師寺の伽藍は、白鷺時代の建物が再建され当時の伽藍配置がほぼ完成を見たという。



金堂

東西塔

大講堂

この番組は、2000年10月17日に放送されたそうですが、先日TV番組で見つけ録画しておきました。西岡棟梁と若き大工とが金堂を建設するやり取りが記録されたドラマで再放送でした。

仮金堂を再建するために高田好胤師が費用集めに尽力し実施にこぎ付け設計図が完成。工事にあたり西岡常一棟梁が中心となり、公募してきた大工たちを面接する様子が描かれていました。ある大工に対して持ってきた大工道具の中の鉋をみて台がなっ

ていないと棟梁に意見された大工はガッカリし落ちたかと思った様子でしたが採用されていました。集まってきた50人の若者の中から西岡棟梁は30人を選び出したが、誰一人として宮大工の経験はなかったという。

再建に当たり設計監理技師には吉岡勇蔵氏が就いたとのこと。設計図の制作は発掘調査によって金堂の基壇や平面規模、柱間寸法などがわかったが、立体の構造と規模や建築の様式はわからない。そのために、『薬師寺縁起』の記述や創建いらいの建物である「東塔」を重要な参考資料として、なんども委員会が開催されて意見が交わされていたそうです。

私が興味を覚えたのは、平面図の制作は、先のようにして制作されたのですが、立面の寸法関係はどのようにして決め描かれたのだろうか。知りたいところです。



昭和46年（1971年）工事開始



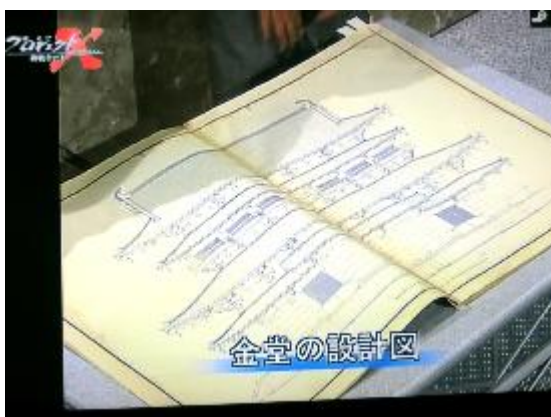
故高田好胤元管主



故西岡常一棟梁



棟梁の緻密な設計ノート



金堂の設計図（立面図）



槍鉋で丸太を削る大工たち

※ 1ページの写真は、薬師寺 無料写真の画像より。2ページの文面の一部は、[第1章 金堂再建～西岡棟梁就任・木材調達のエピソード](#)より引用する。写真は小生がNHK・TVより撮る。